

お問合せ先
OBARA GROUP株式会社
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10
TEL. 046-271-2122

適切に選別された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用
して造ります。



www.obara-g.com

OBARA-G REPORT

第57期 報告書

2014年10月1日………2015年9月30日

証券コード 6877

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2015年9月期における事業の概況等をご報告致します。

当期における世界経済は、米国において景気回復の動きが持続したものの、アジア地域を始めとする新興国の経済成長の鈍化や欧州地域の不透明な景況感の継続などから、全体として低成長で推移しました。

我が国経済につきましては、個人消費が総じて底堅い動きを示す中、企業の設備投資に持ち直し傾向が見られるなど、緩やかな景気回復が続きました。

そのような外部環境の中、溶接機器関連事業が自動車メーカーの活発な生産活動や設備投資への対応を継続的に展開したことや、平面研磨装置関連事業がエレクトロニクス業界の総合的な回復基調において顧客ニーズの発掘と迅速対応に注力したことなどにより、当社の業績としましては、当期純利益が過去最高益となりました。

なお、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要政策として認識しており、2015年3月から6月までに707,500株(自己株式を除く発行済株式総数の3.67%)の自己株式を取得するとともに、当期の配当金につきましては、2015年8月31日に公表の通り、業績が順調に推移したことなどから、1株当たり期末配当金を当初予想より40円増配の70

円(普通配当60円及び当期純利益が過去最高益となったことによる記念配当10円)とし、年間配当金を100円とする案を2015年12月18日開催の定時株主総会に付議し、決議致しました。

次期も依然不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、引き続き成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行うことにより、業績向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2015年12月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶01	セグメント別事業概況 ▶05	主要経営指標の推移 ▶11	会社情報 ▶16	株主メモ ▶18
	営業の概況 ▶03	トピックス ▶09	連結財務データ ▶13	株式情報 ▶17	



営業の概況

連結業績サマリー

(百万円)

	実績			次期(第58期)の見通し	
	前期(第56期)	当期(第57期)	前期比	期初計画	当期比
売上高	47,761	53,161	11.3%	51,000	△4.1%
営業利益	8,938	10,868	21.6%	9,300	△14.4%
経常利益	9,656	11,410	18.2%	9,650	△15.4%
当期純利益	6,186	7,593	22.8%	5,670	△25.3%
1株当たり配当金	70円(年間) 記念配当10円含む	100円(年間) 記念配当10円含む	30円	60円(年間)	△40円

※次期(第58期)の見通しの想定為替レートは、1米ドル=119円を前提としております。

03

当期の連結業績について

当社グループと深く関わる自動車業界では、中国を中心としたアジア地域と米州地域などで、新モデル投入などによる設備投資が行われるとともに、生産活動についても活発な動きが見られました。一方、同エレクトロニクス業界では、先端エレクトロニクス製品の堅調な販売動向などから、総体的に設備投資及び生産活動の緩やかな回復が見られました。

当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努め、ローカルニーズに対応した製品投入を進めました。この結果、当期の業績は、前期に比べ増収増益となり、当期純利益が設立以来の最高益となりました。

次期の見通しについて

当社グループと深く関わる自動車業界では、当期比では調整が見込まれるものの、米州・新興国を中心に、総じて高水準の設備投資や生産活動が継続すると予想されます。また、同エレクトロニクス業界では、通信関連分野の市場拡大が世界的に緩やかに進む中、足元の設備投資や生産活動については、市場実勢に敏感に反応する展開が予想されます。

そのような環境下、当社グループの次期業績について、当期と比較し弱含む水準を予想しておりますが、当社グループとしましては、業績の向上に鋭意注力すべく、成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行ってまいります。また、同時に中長期的かつ持続的な成長を目指す、積極的な設備投資と研究開発を行ってまいります。

04

セグメント別事業概況

溶接機器
関連事業

事業紹介

溶接機器関連事業とは

自動車業界を主要マーケットとする高効率な抵抗溶接機器を製造・販売しています。

自動車が出来るまで

● 溶接機器関連事業と関わる自動車の製造プロセス

車体溶接

塗装

ぎ装

完成

出荷



車体溶接の設備

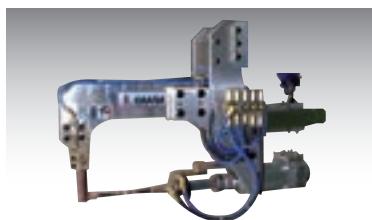
OBARA GROUP が提供する溶接機器

自動車ボディは薄板鋼板で構成されるため、抵抗溶接という接合工法が採用されています。

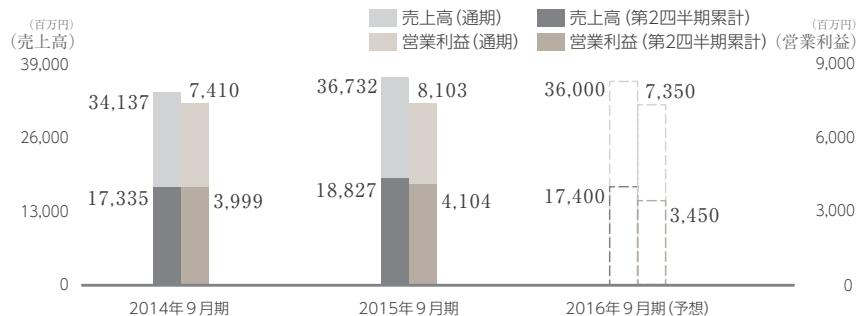
抵抗溶接は、接合ポイントに適切な加圧力と溶接電流を与える必要があります。自動車ボディの組立てには、各自動車モデル固有の立体形状に合わせ、個々の接合ポイントにカスタマイズされた溶接機器が設計・製造されます。

私たちは、国内外の自動車メーカーが行う設備増強やモデルチェンジに伴う設備更新に対し、半世紀に亘って培った経験と最先端の設計・生産技術により、最適な抵抗溶接設備を提案します。日々の生産活動に不可欠な消耗品と合わせ、自動車業界のパフォーマンス要望に応えます。

溶接機器関連事業



溶接ガン



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

売上高構成比

53,161 百万円……2015年9月期 売上高

平面研磨装置関連事業

溶接機器
関連事業

69.1%

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系・欧米系・アジア系自動車メーカーにおいて、中国を中心としたアジア地域や米州地域などで積極的な設備投資が行われ、世界各地の自動車生産は高水準となりました。このような環境の下、当事業として設備品及び消耗品の拡販を図ったことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は367億32百万円(前期比7.6%増)となり、同営業利益は81億3百万円(前期比9.4%増)となりました。

セグメント別事業概況

平面研磨
装置
関連事業

事業紹介

平面研磨装置関連事業とは

エレクトロニクス業界を主要マーケットとする精密研磨装置を製造・販売しています。

エレクトロニクス製品が出来るまで

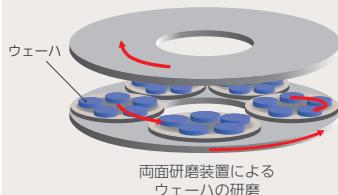
●平面研磨装置関連事業と関わるエレクトロニクス製品の製造プロセス

ウェーハ製造工程
インゴット引き上げ、切断、
ウェーハ研磨

半導体デバイス前工程
成膜、リソグラフィ、
エッチング等

半導体デバイス後工程
ダイシング、ボンディング、
モールドイング等

エレクトロニクス製品組込
完成した半導体デバイス(チップ)の
エレクトロニクス製品への搭載



OBARA GROUP が提供する平面研磨装置

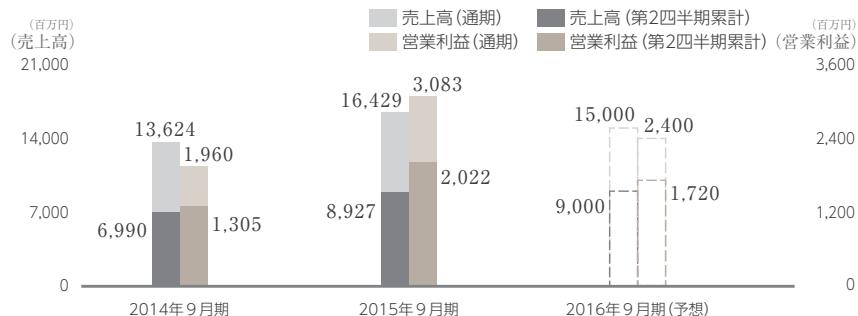
精密加工により製造される先端エレクトロニクス製品は、材料段階で高い面精度を基準平面として要求します。ロジックチップ・メモリーなどの半導体デバイスに用いられるシリコンウェーハ、通信・光デバイス基板、ハードディスク基板など、多様なエレクトロニクス素材の面精度の形成に、ダメージのない微細加工が可能な、遊離砥粒研磨装置が活躍しています。

現代社会を支える各種エレクトロニクス素材の期待水準に、私たちは、ナノオーダー対応の遊離砥粒研磨装置を中心とした精密装置ラインナップで応えます。また、信頼性の高い量産プロセスの確立に必要な、スラリー・研磨パッドなどの消耗副資材も開発・販売しています。

平面研磨装置関連事業



両面研磨装置



売上高構成比

53,161 百万円……2015年9月期売上高

溶接機器
関連事業

平面研磨装置関連事業

30.9%

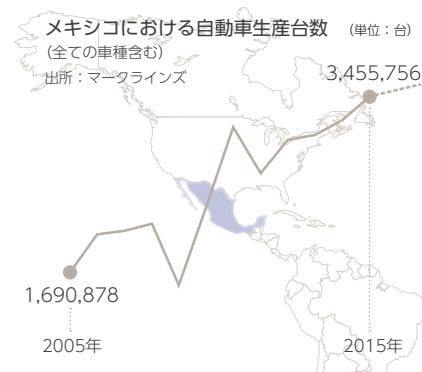
平面研磨装置関連事業につきましては、スマートフォンなど主要エレクトロニクス製品の堅調な販売動向などを受け、取引先であるエレクトロニクス関連素材においても、設備投資及び生産活動に緩やかな回復が見られました。このような環境の下、当事業として顧客要求に適合した販売深耕を各業界へ努めたことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は164億29百万円(前期比20.6%増)、同営業利益は30億83百万円(前期比57.3%増)となりました。

トピックス

事業トピックス／溶接機器関連事業 メキシコ工場の増床完了

メキシコは、巨大な自動車市場である米国と隣接し、労働コストにおいて十分な競争力があるなど、自動車生産に最適な地域の一つであり、自動車輸出国として存在感を増しています。中長期的な成長市場である中南米地域も視野に入れ、日系・米系など自動車各社の設備拡充が続いています。当社グループとしても、メキシコでの自動車ボディ向け溶接機器の需要増大に対応するべく、メキシコ工場を増床し、供給体制を強化しました。当社グループは、今後とも、成長市場への経営資源の投入を推進し、業績向上に努めます。



溶接機器関連事業 メキシコ工場

事業トピックス／平面研磨装置関連事業 欧州工作機械展に出展

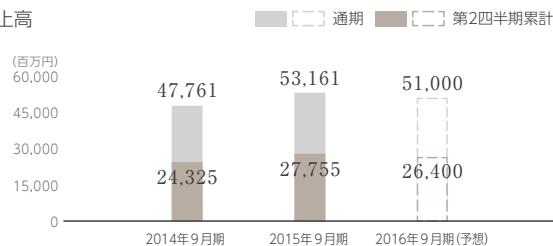
2015年10月、ミラノ(イタリア)で開催された工作機械の総合展示会「EMO MILANO 2015」にて、当社グループは、硬質基板向け片面研磨装置や精密金属部材に最適な両面研削装置などを展示し、多様な加工物に対する最新の取組みを紹介しました。また、当社グループの装置シリーズと各種消耗副資材とを組み合わせ、効果的な製造プロセスについてのプレゼンテーションも行い、来場の方々から注目を集めました。当社グループは、顧客ニーズを具現化する次世代装置など、高付加価値製品の開発に注力してまいります。



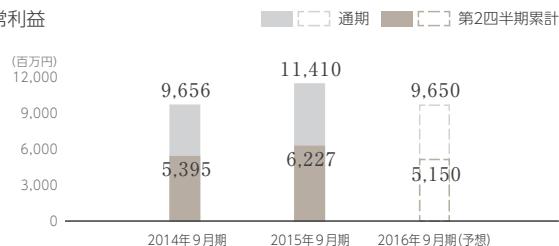
EMO MILANO 2015

主要経営指標の推移

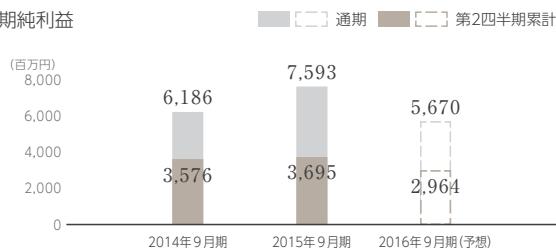
売上高



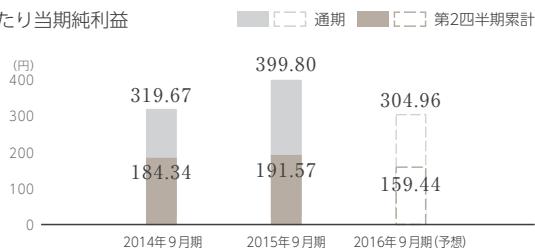
経常利益



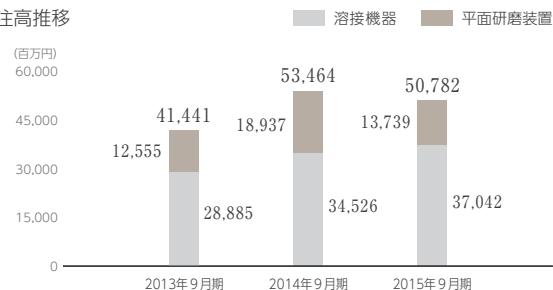
当期純利益



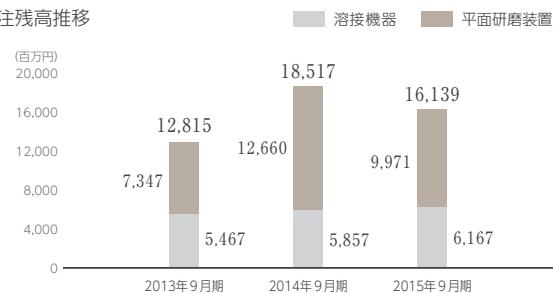
1株当たり当期純利益



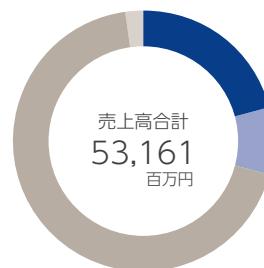
受注高推移



受注残高推移



地域別売上高構成比

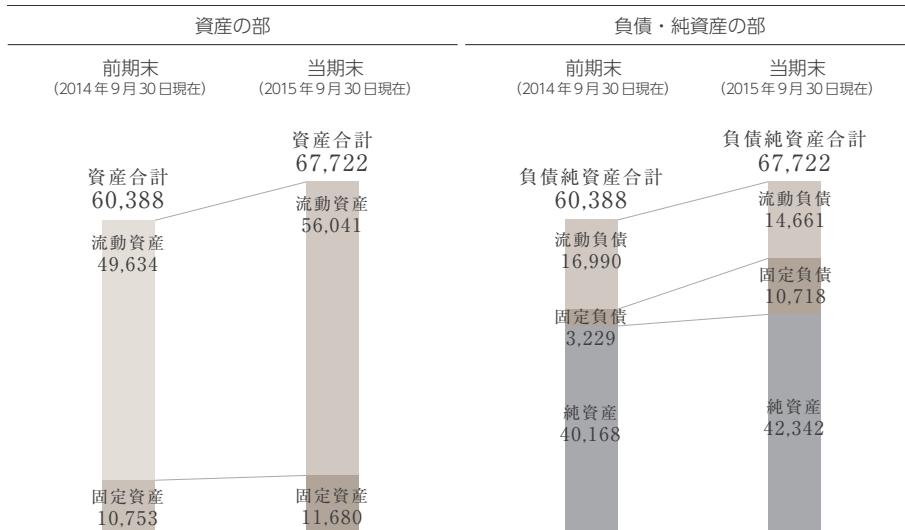


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

連結財務データ

資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



point
1

資産負債

総資産は677億22百万円と、前期末に比べて73億33百万円増加しました。現金及び預金が32億34百万円減少した一方、有価証券が82億38百万円、棚卸資産が11億46百万円増加したことなどによります。負債は253億80百万円と、前期末に比べて51億59百万円増加しました。前受金が14億86百万円減少した一方、転換社債型新株予約権付社債が70億63百万円増加したことなどによります。

point
2

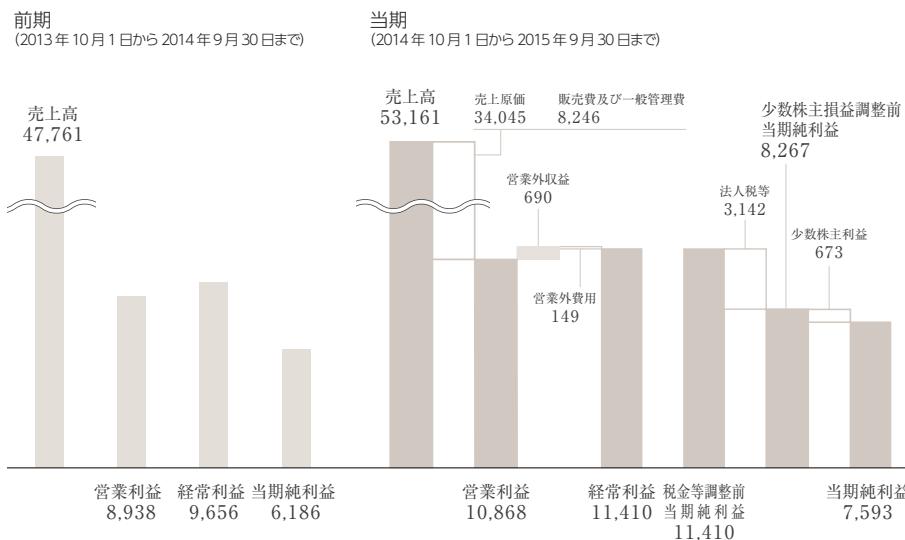
純資産

純資産は423億42百万円と、前期末に比べて21億74百万円増加しました。自己株式の取得により50億1百万円減少した一方、当期純利益を75億93百万円計上したことなどにより利益剰余金が60億57百万円増加したことなどによります。

13

損益の状況

(単位：百万円)



point
3

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益

連結売上高は、531億61百万円(前期比11.3%増)、営業利益108億68百万円(前期比21.6%増)、経常利益114億10百万円(前期比18.2%増)、当期純利益75億93百万円(前期比22.8%増)となりました。

point
4

営業外収支

受取利息2億90百万円、為替差益2億43百万円など、営業外収益が6億90百万円となった一方、支払利息47百万円など、営業外費用が1億49百万円となりました。

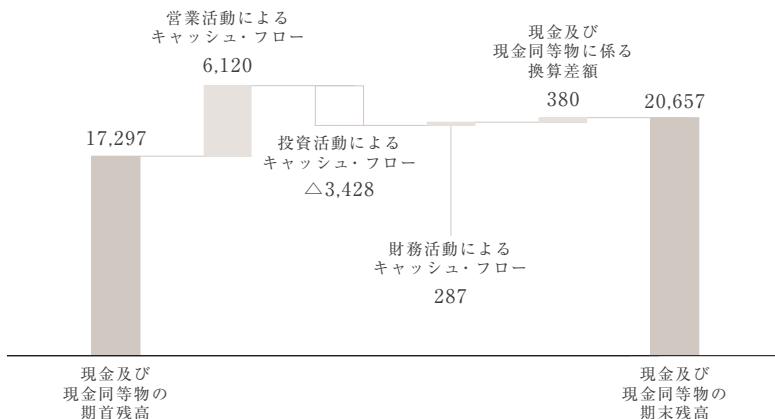
14

連結財務データ

キャッシュ・フローの状況

当期
(2014年10月1日から2015年9月30日まで)

(単位：百万円)



point
5

営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は、61億20百万円の資金増加となりました。税金等調整前当期純利益が114億10百万円などとなった一方、前受金の減少額が16億55百万円、法人税等の支払額が29億95百万円発生したことなどによります。

point
6

投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金は34億28百万円の資金減少となりました。定期預金の純増加額が17億7百万円、有形固定資産の取得による支出が13億89百万円、投資有価証券の取得による支出が5億20百万円発生したことなどによります。

point
7

財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動により得られた資金は2億87百万円の資金増加となりました。社債の発行による収入が70億45百万円となった一方、自己株式の取得による支出が50億26百万円、配当金の支払額が15億36百万円、少数株主への配当金支払額が2億13百万円発生したことなどによります。

15

会社情報

会社概要

(2015年9月30日現在)

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
従業員数	21名(連結 1,622名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-1111 (代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	http://www.obara-g.com/

役員

(2015年12月18日現在)

取締役社長	小原 康嗣
取締役	小林 憲史
取締役	周澤 健
取締役	山下 光久
社外取締役	大西 倫雄*
常勤監査役	谷内 博
社外監査役	須山 正志*
社外監査役	牧野 宏司*

* 証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

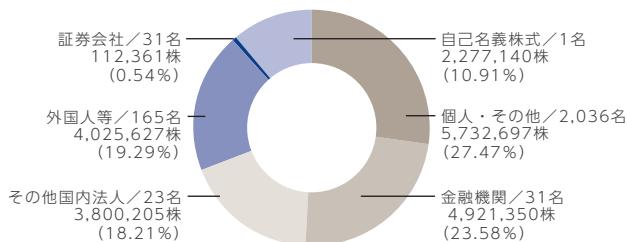
16

株式情報 (2015年9月30日現在)

株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	2,287名

株主分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,703	19.92
小原 康嗣	2,261	12.16
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,126	6.06
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	1,039	5.58
JP MORGAN CHASE BANK 385632	551	2.96
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	411	2.21
株式会社三菱東京UFJ銀行	369	1.98
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	353	1.89
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	339	1.82
小原 博	310	1.66

- (注) 1. 上記のほか、自己株式2,277千株を保有しております。
 2. 持株比率は、自己株式2,277千株を控除して計算しております。
 3. 小原康嗣の持株数は自身の管理分株数774千株を加えて表示しております。

株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで
 定時株主総会 毎年12月
 基準日 定時株主総会の議決権 毎年9月30日
 期末配当 毎年9月30日
 第2四半期末配当 毎年3月31日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人 〒100-8233
 東京都千代田区丸の内1-4-1
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の
 口座管理機関 東京都千代田区丸の内1-4-1
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱所 〒168-0063
 東京都杉並区和泉2-8-4
 三井住友信託銀行株式会社
 証券代行部
 TEL：0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

公告方法 当公司公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。
<http://www.obara-g.com/>
 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行なうことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。